

MIT×デロイトに学ぶ DX経営戦略(第13回)

コラボレーションの極意

2022.07.11

理想のコラボレーションとは？



人の肩をよじ登って誰かの肩の上に立ち、また別の人がその人の肩をよじ登って肩の上に立つ。これを繰り返して、10階建ての建物の高さに相当する人間の塔を作るというチーム競技を、あなたと同僚たちが命じられたと想像してもらいたい。優勝チームは、この多層式の人間の塔を一番早く完成させて、一番早く解体させたチームだ。

もしスペインのカタルーニャに行ったことがあるなら、これと同じ競技を見たことがあるかもしれない。「層を積み重ねて高くなる、赤い半裸の震える塔は、背中の広い男たちが土台になって重みの下で汗をかき震えており、最後に、小さな女の子がずるずるとつぺんまでよじ登り、勝利で腕を突き上げる。身がすくむような光景だが、怖いもの知らずの参加者たち(castellers/カスターイエース)は大きな誇りを抱いている。この人間の塔(castell/カステイ)作りは、カタルーニャ文化の中核をなすからだ」

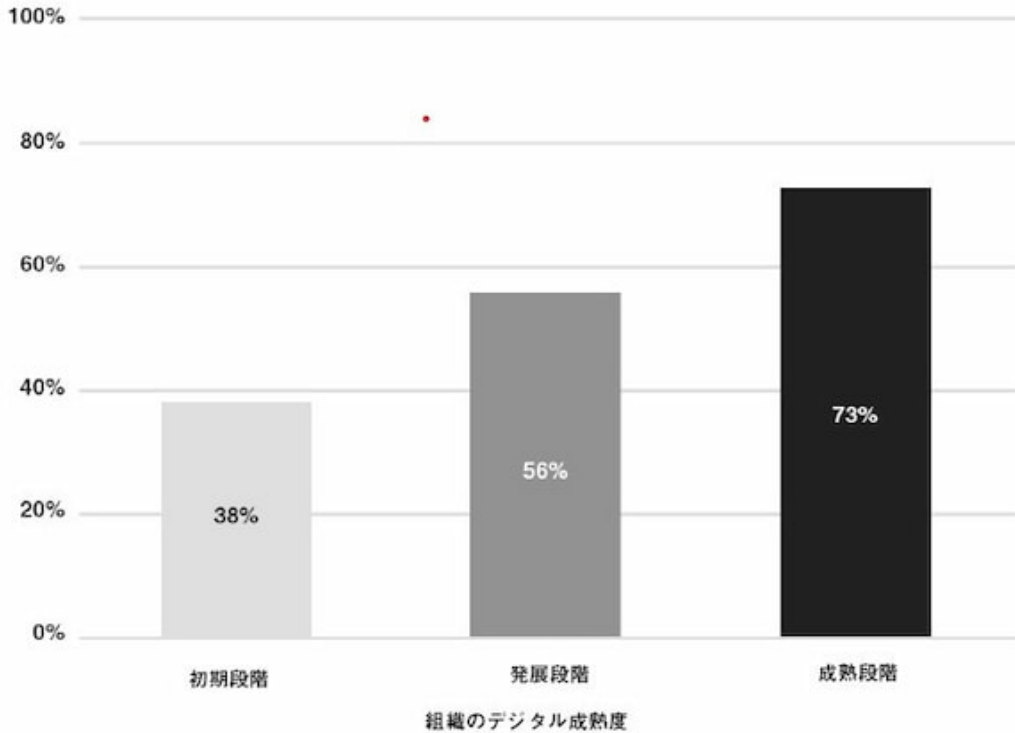
人間の塔(カステイはカタルーニャ語で「城」を意味する)を作るカタルーニャの伝統は、18世紀にまで遡る。カスターイエースのモットーは、「フォルサ、アキリプリ、パロー、セニ」すなわち「力、バランス、勇気、良識」である。テクノロジーに破壊された世界において、カタルーニャのカステイの伝統とそのモットーは、デジタルに成熟している組織に求められる、コラボレーターとコラボレーションの完璧な例えと言えるかもしれない。

コラボレーションの必要性を推進するものは何か？

企業におけるコラボレーションの取り組みの推進力として挙げられた回答は、興味深い。拡大するコラボレーションの背後にある主な推進力は、仕事の性質だと私たちは思ったのだが、回答者は仕事の性質と、コラボレーションに使える新しいツールとテクノロジーの両方を挙げたのだ。言い換えるなら、人々がそれまでとは違う新しいやり方でコラボレーションするのは、仕事のコラボレーションを求めるから、並びに効率的にコラボレーションできるツールが今あるから、ということになる。

成熟段階の企業は、こうした考えを具体的に実行に移し、さらに進んだコラボレーションツールを導入する可能性が高い(主に電子メールに頼るのとは対照的だ)。デジタルに成熟している企業の70パーセント以上が、高度なコラボレーションツールを使って仕事をしている、または使って仕事を始めていると答えたのに対し、同じ回答をしたのは、初期段階の企業では40パーセント未満しかいなかった。

わたしの部門またはチームは、円滑なコミュニケーションを促進するために、電子メールではなく、高度なコラボレーションツールを使って仕事をしている、または使って仕事をし始めている（「非常にそう思う」「そう思う」とした回答者）



デジタル時代の仕事の性質は、部門の枠を超えて、さらにアジャイルになり、さらに反復して仕事をするよう組織に求める。これに対応するには、当然、さらなるコラボレーションが必要になる。有効に利用すれば、デジタルプラットフォームはコラボレーションを可能にするだけでなく、人々がコラボレーションし関わり合う方法を変える。

さらに高度なプラットフォームによるコラボレーションの潜在的利益を考慮すると、組織がこうしたツールを内部コミュニケーションとして導入するのにどれほどのんびり構えていることか、組織の対応の遅さにはいささか驚かされる。

デジタルのコラボレーションツールは、グループの幅広いコミュニケーションをさらに効率よく効果的に行うために有用である。例えば企業の場合なら、プラットフォームは、優れた意図的なコラボレーションを支える二つの主要な機能を提供する—ネットワークの管理とコンテンツの共有である。

プラットフォームの透明性と永続性… 続きを読む